

会 議 録

会議の名称	令和3年度（2021年度）第1回豊中市学校教育審議会		
開催日時	令和3年（2021年）11月24日（水） 19時00分～20時30分		
開催場所	豊中市役所第二庁舎3階大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	教育委員会事務局 学校教育課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員	青木委員、岩崎委員、上田(千)委員、浦委員、榎本委員、大路委員、大寺委員、大野委員、柏木委員、河崎委員、木村委員、後藤委員、仙崎委員、園田委員、永井委員、服部委員、伴野委員、伊集院委員、小林委員	
	事務局その他	小野事務局長、道上教育監、中尾理事、藤崎主幹（計画担当）、上野係長、栢井	
議題	1. 教育監あいさつ 2. 出席委員の紹介 3. 議案 （1）会長、副会長の選出 （2）学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針に基づくこれまでの取組みについて 4. その他 今期のスケジュールについて		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

● 開会

● 成立要件の確認

● 資料の確認

- ・ 次第
- ・ 豊中市学校教育審議会に係る規則等について【資料1】
- ・ 豊中市学校教育審議会 委員名簿【資料2】
- ・ 学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針【資料3】
- ・ 庄内地域における「魅力ある学校」づくり計画【資料4】
- ・ 義務教育学校リーフレット【資料5】
- ・ 新千里南町3丁目及び東泉丘2丁目の通学区域の変更について【資料6】
- ・ 桜井谷東小学校・第九中学校について【資料7】
- ・ 学校教育審議会の今期のスケジュールについて【資料8】
- ・ 豊中市立小学校位置図【参考1】
- ・ 豊中市立中学校位置図【参考2】
- ・ 令和3年度児童・生徒数【参考3】

● 教育監あいさつ

● 出席委員の紹介

● 議案（1）会長、副会長の選出

（互選により、会長には岩崎委員が、副会長に柏木委員が、それぞれ選任された。）

● 議案（2）学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針に基づくこれまでの取組みについて

事務局：資料1～7について説明

会長：ただいまの説明について、ご質問、ご意見等があればいただきたい。

A委員：まず、義務教育学校の教員免許について、特に第2ステージの小中学校に跨るところの教員配置についてどのようになっているか現状をお聞きしたい。次に、もし将来的に他の学校も義務教育学校にしていくということであれば、小中学校両方の免許を持つ先生がたくさんいるといろいろなとやりやすくなると思うのだが、そのあたりの教員採用について、事務局で何か戦略的なことを考えておられるのかどうかお聞きしたい。

事務局：小中学校両方の免許を持つ先生は、概ね全体の約3割強である。（仮称）庄内さくら学園の教職員の体制について、先ほど教科担任制を入れていくと申し上げたが、全教科を教科担任制にすると第2ステージが中学校になってしまうので、学校と一部の教科だけにしていこうと話している。現在時間割をきちんと作成できるかを吟味しているところで、教員数やご指摘の教員免許の話が解決できれば、その方向で対応して参りたいと考えている。次に、小中一貫した学校を今後も作っていくということにな

れば、新規採用において、小中学校両方の教員免許を持つ方に対してインセンティブを与えていくかどうか今後の議論、課題として挙がっている。

B委員：桜井谷東小学校と第九中学校について、増築したら、今後何年ぐらい子どもの人数の増減に対応できる見通しなのかお聞きしたい。

事務局：桜井谷東小学校については、これから減少傾向に転じていくものと考えている。桜井谷東小学校が大規模校化に繋がったのは、大規模な区画整理事業と大阪府立少路高校の跡地に大きなマンションが建ったことによる影響である。あと数年経てば、小中学校の子どもを持つ家庭が高校生・大学生に移行する時期に来るため、少しずつ減少していくという想定をしている。続いて第九中学校については、東泉丘小学校との通学区を変更したために若干子どもの数が増えたということと、こちらについてもマンションの建て替え等が結構あったため、規模が大きくなっている。こちらについてももう少ししばらくすれば減少傾向に転じてくると想定している。

C委員：（仮称）庄内さくら学園によって、庄内の人気を出していこうというのはわかるが、学校だけを良くしてもおそらく私はそんなに子どもの数は増えないのではと思う。例えば、大きいスーパーを招致する、不動産屋と連携してすごくいい街並み、視覚的にも魅力的な街並みをつくっていく、などのイメージまでを総合的に考えないと解決しないと思う。桜井谷東小学校も今後減少傾向だろうということだが、今でも土地はあり、マンションがまた建てば人口が増える可能性もあるので、そういう予測よりは、それぞれの地域に魅力あるまちづくりをしていく、そこからの話ではないかというふうに思う。

事務局：3 中学校と 6 小学校の再編に伴い、学校跡地がでてくる。学校だけでなく、まち全体をどのようにしていくか考え、進めている。おっしゃっていただいた通り、南部地域は、昭和 45 年頃をピークに、人口が減少しており、この 50 年で人口が半減している。ただし、転出入をみると、梅田に近い、家賃が安い、スーパーや飲食店が多くて住むには便利ということで、実は 20 代の方は転入超過である。一方で、子育て世帯である 30 代 40 代と 0～9 歳は出ていってしまっている。アンケートでは、道が狭い、昔ながらの木造住宅が多いため防災が心配、教育環境が心配、というお声をいただいている。教育環境については、新しい学校ができるというところで、しっかりとした教育内容を作っていくことが一つである。また、この地域の良さ、本質的な価値をしっかりとつくっていくために、今、豊南市場、大阪音楽大学、スポーツ施設、ものづくりの事業者が多いなど庄内地域の特色がたくさんある。これらの特色を“音楽”“ものづくり”“スポーツ”“食”の 4 つの要素とし、学校、学校跡地、まち全体を通して、この要素を体感、チャレンジできる『まちごと暮らスクール』として実現していきたい。そうすることで、他にはない南部地域だけの魅力をどんどん発信していきたい。

D委員：明石市や尼崎市は、人口減少が進んでいたが、近年、子育て世帯の流入率が高くなっている。子育て世帯に助成金を出すなどの政策による所も大きいですが、あわせて一人ひとりを大事にしていこうという教育をしており、そこに保護者が注目し、教育移住をされている。このような現象は、最近多く見られる。（仮称）南部コラボセンターを開設するということだが、そこで貧困や困難を抱えている子どもをいかにケアしていくのか、よりよい教育をどう手厚くしていくのかということにきちんと取り組んでいくと、困りごとを抱えていない保護者にとってもすごく魅力がある学校になり、教育移住が期待できる。魅力ある学校づくりを地域の方々や市全体で一緒に取り組むというのは非常に良い考え方である。

会長：様々な観点から魅力をつくっていくことも大事である。一方で、学校教育審議会としては、教育をベースに学校を中核地点としてどのような魅力あるものにできるかというところを考えるのが一つのミッションである。両方相携えてよりよい議論ができれば良い。

E委員：この学校再編により、様々な関連施設が改修されたり、建てかわったりするので、抜本的に環境が変わってくる。先ほど言われた尼崎市などで大きくイメージが変わってきたということが、豊中でも期待できる。教育は、様々な面で根幹に関わる問題である。これから子ども、人材が減ってくるので、若い人が入ってきてくれば、地域の活力にもなる。そこをめざして結束してやっていくことが必要である。（仮称）庄内さくら学園は、その走りになるのではないかと期待している。

F委員：今お話があったように、一貫校ができるということで不動産業界も大変注目しており、ここ数年で大幅に変わる。生徒数が増えるのではないかと期待している。

G委員：庄内はとても住みやすい町だと、大学近くで下宿する学生らから聞く。物価が安く、美味しいものがたくさんあり、人が温かい。また学校に関して言うと、南部の小中学校は児童生徒数が少ないこともあり、今本当に落ち着いている。学校が小規模のため、全ての先生が全学年の子どもを知っている状態なので目が行き届いており、とてもファミリーな雰囲気がある。それなのに、かなり昔の庄内の学校に対するイメージがいまだに残っていることに対して、今は違うと言いたい。

H委員：大規模校は運動場が狭く、小規模校はクラス替えができないなどのそれぞれに様々な課題を抱えている。課題を解消するために、校区の編成の仕方を変えられないのか。校区変更によって、場合によっては、通学距離が近くなる所もある。小規模校は、今後更に生徒数が減るということを考えていかないといけない。

事務局：子どもの数が非常に少なくなっている学校は把握している。教育として、このお題に対してどう向き合っていくのかを今後議論させていただけたらと考えてい

る。(仮称)庄内さくら学園は義務教育学校になり、特色ある教育サービスを提供するが、他地域の学校には、教育としてどう向き合っていくのか、今後この小中一貫の教育を進めていくにあたり、どうサービスを提供していくのかという視点で、今後ご議論いただけたらと考えている。

会長：予定の時間となったので、このあたりで審議を終了したい。

● その他

事務局：資料8について説明

C委員：学校規模の話の中で、どうしても生徒数の話ばかりがでてくるが、面積や施設についても検討を含めた校区再編を考えていただきたい。生徒数が非常に多いが、面積的には狭い学校は、コロナが起きてから苦勞されている。

I委員：もう新しい学校ができると決まっているわけだから、みんなで成功させましようと思う。学校を盛り立てるような先生に来てほしいし、良い学校ができたことを世界に知ってもらえるようにしたい。

J委員：支援学級数について、見立ての学級数だと同じようでも、支援学級というところで大分違いがあったりするので、その辺のバランスだったりを今後提案したい。

会長：事務局から連絡事項等があればお願いしたい。

事務局：次回の審議会は、2月末もしくは3月での開催を予定している。今回同様、会場とオンライン両方での開催を予定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況により延期またはオンラインでの開催となる場合もある。日程が決まり次第、ご連絡させていただく。

会長：以上で、本日の審議会を閉会させていただく。

● 閉会